

二ツ池セレクトナ自然体験・環境活動拠点 整備方針（案）

1 拠点整備の目的

これまで二ツ池セレクトナは、地域住民や環境団体と連携し、自然体験学習施設として親しまれてきました。施設改修を機に、セレクトナをゼロカーボンの推進拠点として進化させるため、デジタル技術を活用し、自然とデジタルが融合した体験型展示やイベントを展開することで、新たな魅力を創出します。また、自然体験を入口に、市民の脱炭素行動を促進し、ワークショップや学校連携などのソフト事業を通じて、学びと実践の循環を形成します。さらに、地域の多様な主体が交流・連携できる場を整え、新たな大府市環境パートナーシップの担い手を育成。ゼロカーボンを推進する施設として、住む人も訪れる人も愛着を持てる空間を創出し、持続可能なまちづくりの拠点として地域づくりに貢献することを目指します。

2 自然体験・環境活動拠点の方向性

(1) 課題と対応

本市は「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、地域ぐるみで持続可能なまちづくりを推進しており、市民・団体・企業・行政が協働する「大府市環境パートナーシップ」には、約40団体が参加している。施設改修に加えて、こうした地域資源を活かしながら課題に対応し、市民の学びと行動をつなぐ“自然体験・環境活動拠点”の整備を進めます。

課題① 展示コンテンツの陳腐化

講座やイベント等の充実により来館者は増加している一方で、展示コンテンツの陳腐化により、新たな利用層や市内外からの来訪者が増えにくい状況にある。

対応① 体験型展示による魅力の再構築

デジタルコンテンツと豊かな自然を活用した、デジタルとリアルが融合した体験型展示やイベントを展開。新たな魅力を創出し、シティプロモーションやシビックプライドの醸成を図ります。

課題② 気づきと実践機会の不足

環境意識の高まりが見られる一方で、脱炭素やエコな暮らしを「自分ごと」として捉え、具体的な行動へとつなげるための学びや実践の機会が十分とは言えない状況です。

対応② 暮らしに根ざした情報発信の強化

これまでの自然体験学習施設の機能を生かし、展示を通じて実践に向けた体験を促し、学びを暮らしに取り入れる行動変容へつなげます。さらに、日常生活に取り入れやすい環境配慮行動や実践例を分かりやすく発信し、市民の行動変容と市民主体の環境活動の拡大を目指します。

課題③ 脱炭素を学ぶ場の不足

地域ぐるみで脱炭素を進めていくためには、こどもから大人まで、誰もが楽しみながら学べるような場づくりや仕掛けが求められています。



対応③ 脱炭素を体感的に学ぶ場の創出

自然とのふれあいを通じて、映像やデジタル技術を活用した参加型展示に転換。楽しみながら脱炭素を体感・学習できる場をつくります。

課題④ 環境団体等の連携機会の不足

大府市環境パートナーシップには多様な団体が参画しているが、地域との接点や団体間の連携が不十分で、市民への浸透や担い手確保が課題。



対応④ 地域と連携する活動の場づくり

展示テーマに連動した協働・交流の場を設け、団体・企業・市民とのつながりを促進。展示空間では活動や実践事例を紹介し、共感と波及効果を高めます。また、環境パートナーシップ参画団体等がつながる場を整備し、連携・協力を進めながら継続的な活動を支える担い手を育てていきます。

(2) 課題の解決に向けた整備の方向性

二ツ池セレクトナを、自然体験学習施設としての機能を生かしつつ、脱炭素に向けた環境活動拠点としての機能を強化することにより、ゼロカーボンを推進する施設として再定義します。

① 自然体験とデジタルが融合した魅力ある場づくり

二ツ池の自然環境を活かし、屋外の自然体験とデジタル技術を融合した展示やイベントを展開。新たな魅力を創出し、来館意欲を高め、シティプロモーションやシビックプライドの醸成に貢献します。

② 暮らしに根ざした情報発信の強化

体験型展示や情報コンテンツを通じて、環境配慮の行動や実践例をわかりやすく発信。市民が自分ごととして脱炭素や環境活動に取り組むきっかけを提供し、行動変容を促します。

③ 脱炭素を体感的に学ぶ場の創出

自然とのふれあいを活用し、映像・デジタル技術による参加型展示へ転換。こどもから大人まで、楽しく脱炭素を体感・学習できる場として再構築します。

④ 地域と連携する環境活動拠点の整備

大府市環境パートナーシップの参画団体をはじめとする市民・企業・行政が連携できる空間を整備。協働の仕掛けを通じて、新たな担い手育成や地域全体での環境活動の推進を図ります。

【参考】「ゾーニングと目的」と「ソフト事業例」を示す。なお、より良い提案があればそちらを採用する。

1 ゾーニングと目的

	ゾーニング	目的
2階	体験学習スペース	脱炭素や環境の学びを楽しく直感的に体験できるようにする デジタル技術の活用により五感を使って主体的に学びを深める
	森のテラス	自然とのつながりを体感できる場にする
	玄関ホール (床面誘導・アサギマダラ)	自然を身近に感じながら楽しく入館できるようにする
	玄関 (木質外構・ロゴ)	入りやすく、温かみのある施設印象とする
1階	発見と学びの展示	興味を知識に深め、学びを定着させる
	休憩ロビー	自然の風景と静かに向き合う空間を提供
	学習室 (講座・イベント等)	地域や団体との連携による学びの場

2 ソフト事業例

ソフト事業は、プロポーザル審査において、施設整備に加えて、「学習室」「書籍コーナー」「森のテラス」などの空間と連動しながら効果的な提案を求める予定であるが、参考として事業例を示す。

事業を展開することで、環境活動団体及び環境リーダーの創出・育成を促し、日常生活において積極的に環境配慮行動が実施される持続可能なまちづくりに寄与することを目指す。

(1) 大府市環境パートナーシップの拠点化に資するソフト事業

① パートナー発掘サロン

大府市環境パートナーシップの団体と企業・個人が気軽に交流・対話できる定例サロンを開催。大府市環境パートナーシップの活動紹介や連携アイデアの共有、新規参画者の発掘を行うことで、拠点としての「つながりの場」を形成。

② 地域団体（自治区、市民団体など）における環境活動の創出・促進支援

環境分野の「こんな活動がしたい」「手伝ってほしい」など、団体・個人・企業間の協働ニーズをコーディネートすることで、地域団体などが活躍する環境活動の創出・促進を支援する。

③ 協働実践ラボ（共創型プロジェクト実験室）

「アサギマダラを呼ぶ花壇づくり」や「地域清掃×脱炭素」など、市民参加型のテーマ別プロジェクトにより、デジタルの融合と体験・実践から学び合いと交流を生み出す。

④ 地域団体活動ウィーク

大府市環境パートナーシップの参画団体が週替わりで活動紹介や体験企画を行う。セレクトナの展示と連動し、団体と市民の“出会いの機会”を創出

(2) 環境学習を推進するソフト事業

① ゼロカーボンキッズ・チャレンジ

小・中学生向けに館内を巡るスタンプラリーやクイズ形式で、脱炭素や自然保護を楽しく学ぶ体験学習プログラムを実施。家族連れの来館促進にも寄与。

② まちのゼロカーボンティチャーの育成・派遣（環境リーダーの育成）

市民や大府市環境パートナーシップの参画団体が講師となり、脱炭素・省エネ・ごみ減量等に関する講座やワークショップを実施。市民主体の学びの連鎖と地域内展開を促し、環境分野のまちづくりリーダーを育成する。

③ 学校連携ワークショップシリーズ

市内小中学校と連携し、総合学習や理科などで自然・環境・脱炭素を学ぶ体験型授業を展開。セレクトナでの校外学習や出前講座による教育連携を進める。